# 血液透析患者における dulaglutide から tirzepatide へ変更後の血糖コントロール改善と体重減少効果

医療法人衆和会　長崎腎病院

○岡田美月　山下実紗　中村麻美　白井美代子　大塚絵美子　澤瀬健次　船越　哲

【背景】
Tirzepatide(以下 Tir)は、グルコース依存性インスリン分泌促進ペプチド受容体とグルカゴン様ペプチド-1 受容体に同時に作用するデュアルアゴニスト製剤である。過去の臨牀研究において、Tir が 2 型糖尿病患者の血糖コントロール改善のみならず、体重減少効果を呈することが示されているが、透析患者に対する Tir の効果は不明である。
【方法】
当院の糖尿病透析患者で Dulaglutide(以下 Dula)から Tir に変更した患者を対象に、血糖変動値を、間歇スキャン式持続グルコースモニタリング（以下リブレ）にて解析した。加えて吐気の出現頻度、また体重や栄養状態の変化について検討した。
【結果】
14 名の患者（平均年齢：61.9±9.9 歳、男性：女性＝11：3）が本研究の対象となった。Dula から Tir に変更後、リブレによる目標範囲内は 42.7%から 50.8%に増加し（p=0.02）目標範囲以上は 48.4%から 37.8%に減少（p=0.02）、平均血糖値も 156.6mg/dl から 137.4mg/dl に減少した（p=0.006）。症状を呈する低血糖はみられなかった。吐き気は 1 例（7.1%）に出現した。平均体重は 71.6Kg から 70.1Kg に有意に減少したが、平均 GNRI は 93.9 から 94.0 と変化はなかった。
【考察】
糖尿病透析患者において、Dula から Tir への切り替えにより血糖コントロールは改善した。しかし体重は減少しており、今後は栄養状態への注意は必要と考える。